

2014年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：川崎市立川崎中学校

担当：英語

氏名：小野 恵子

1. 今回の研修における目的やねらい

私は、国際理解教育や開発教育に以前から興味を持ち、休暇を利用して訪れた国を授業で生徒に紹介したり、教材にするなど、自分なりに実践をしてきました。しかし時に、自分の視点が正しいのか、偏りはないかと不安を覚えたり、いざ取り組んでみても教科書の単元とあわせての単発のものになってしまい、継続した実践ができませんでした。そのような中で JICA の海外研修と開発教育を知り、今までの自分の取り組みを振り返ると共に、初めて訪れるタンザニアを通して、開発教育を1から勉強し、授業で実践していくことで教員としてのスキルアップを図るのが今回参加したねらいです。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

実践授業はまだこれからですが、事前の研修から開発教育について学んだり、また過去の参加者のお話を伺ったりととても参考になりました。授業方法についても、実践例を沢山紹介していただきました。タンザニアに連れて行っていただき、また JICA でなければ行けない場所に連れて行っていただきました。そこで活躍する日本人の方のお話が聞けたこと、そしてその日本人と一緒に働くタンザニアの人の双方からお話を聞けたことが何よりの財産になりました。あとは、私自身がタンザニアで見てきたことを、いかにリアリティを持って生徒に伝えるかが勝負だと考えています。

3. タンザニアから学んだこと

数え切れないくらいたくさんのお話を学ばせていただきました。タンザニアでの日々を思い返すことでまた印象が変わってきたり、理解が深まったりと多少の変化はあるかもしれません。ただ、タンザニアの現状を目の当たりにし、JICA の支援プロジェクトをいくつか見学させていただいて感じたことは、「相互理解」です。アフリカの他の国々に比べて、タンザニアという国が多くの人を流さずに独立を果たしたのは、初代ニエレレ大統領が出身地域、部族に関係なく子どもたちと一緒に教育し、共同生活をさせることで相互理解をさせたことが大きいと思います。さらに、「相互理解」は部族間の問題ではなく、日本からの国際支援の現場にも活かされていました。

また、ザンジバル島でホームステイをさせていただく機会がありました。島民の98%がイスラム教徒という環境で、私がステイさせていただいたご家庭ももちろんイスラム教徒でした。日本で生活していると、縁遠いイスラム教のイメージはどうしてもマスメディアから入ってくる暗いイメージになってしまいがちです。しかし、実際にお家の中のお邪魔させていただいたことで、「タンザニア」だけではなく、イスラム教徒の生活も垣間見ることができたのが大きな収穫だったと思います。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

まずは、実践授業にてタンザニアの現状を子どもたちに伝える、というのが目下の目標ですが、今回の研修で大きく感じたことのひとつが、国際支援も教育も根底の部分ではつながっているということである。どのような現場であっても、そこに生きる人がいて、共に歩む姿勢がタンザニアで国際支援を行っている人たちの姿だった。また、支援者の姿を目の当たりにして、グローバルな人材は相互理解ができる人なのだと強く感じた。そんな生徒を育てていきたいと思っています。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修では、あまり自分が得意ではない分野の事業をたくさん見せていただけたのが大きな収穫でした。特に、水事業や電気事業は日本で生活していると、あることが当たり前なので、日本では正直、あまり気にしていませんでした。しかし、実際に事業を見せていただいて、ないのが当たり前だと、知識だけで知っていた世界が急に現実となり、今までの自分の甘さを痛感しました。

また、参加者や現地で活躍する隊員、専門家とお話しできたことは大変有意義でした。普段の日本での生活ですと、職場と自宅の往復になってしまいがちですが、沢山の分野の方々とお話ができただことで視野が広がり、とても刺激になりました。また参加者の先生方と、今後も事後研修などで共に切磋琢磨していける仲間としての出会いだったと思います。事後研修や実践授業の報告会が今から楽しみです。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

私は記録（写真）とホテル係を担当しました。特にホテル係は今回新しい試みということでしたが、うまくいったと思います。チェックアウトですよ、と声をかけたり、部屋割りを決めたりすることで、少しは移動や交渉がスムーズにいったかなと。多少英語ができて、強気で現地の方に挑める人だと、話が通りやすいこともあるので、良かったと思います。ただ、この係がもし1人だったらと考えると荷が重かったと思うので、複数名で担当するとちょうどいいのかなと思いました。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

かなりタイトなスケジュールを見て不安を覚えたのも事実ですが、どれも削れないというのが実際のところだったと思います。また自分自身、そのいいとこ取りの海外研修だけでは少し物足りない気がしているのは、我が儘でしょうか。治安が日々悪化しつつあるというタンザニアで、参加者全員が無事研修を終えられたのは、JICA タンザニア事務所のみなさまと、日本から同行していただいた JICA 横浜の田中さんのお蔭です。ありがとうございました。

今回参加させてもらった海外研修は、スタートラインであり、これからこの研修を日々の教育活動の中でどう生かせるかが重要だと考えている。そのためにまずできることを1つ1つやっていきたいです。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

現地に行ってから、帰ってくるまで、全てがとにかく学びの連続でした。また、自分が気がついたことを同じ参加者の先生方と共有することで、自分には見えていなかったタンザニアの現状や課題が見えてくるなど、視野が広がります。

9. 各訪問先等の所感

| 日 時 | テーマ | 所 感 |
|---------------------|------------------------|--|
| 8月11日(月) -12日(火) | 日本からタンザニアまでの移動中および現地到着 | いよいよ出発ということで、テンション高めの一歩だった。特に印象的だったのがドーハのトランジット後。外は白い大地で照り返しが眩しいくらいだったのに、アフリカ大陸になると大地が赤くなり雲が増えていったこと。そしてタンザニアに着く直前に見えたザンジバル島の海の美しさ。明日はあの島に行くのだと思うと、タンザニアに来 |

| | | |
|----------|------------------------------|--|
| | | たという実感がいよいよ湧いてきた。 |
| 8月12日(火) | JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング | 経済成長が7%ということでお金が集まる街とな ってきている。またそれと共に犯罪も増えていて、 犯罪率でいうとヨハネスブルグよりも高い、とい うのが驚きだった。 |
| 8月12日(火) | 本日の振り返り | JICA タンザニア事務所のみなさんと夕食をとも にした。事務所のみなさんのお話ひとつひとつが興 味深かったが、それよりも、隣の敷地で作業して いるクレーン車のライトに照らされながら食事 を取るというシチュエーションに、ダルエスサラ ームの経済成長を感じずにはいられなかった。 |
| 8月13日(水) | JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング | 教育セクター、水セクターのお話。教育システム が日本と違い、ある学年が終わるごとにテストを 受け、次のステップに進むには合格しなければな らないという。ハリーポッターみたいだと少し思 った。テストに向けて一生懸命学習する子ども たちがいるのと、教育に関心が強いご家庭も増 えているとのこと。とにかくペーパーができな ければ話にならないというのが、タンザニアの 現状。理数科嫌いも目立っているということが 日本と同じだと感じた。また、水セクター では、明日実際に見るザンジバル水公社の 現状だった。水道事業には疎く、また普 段気にもとめていなかった自分に気がつ いた。 |
| 8月13日(水) | ザンジバルへ移動 | ダルエスサラームの波止場でダウン症の男 性が働いている姿があった。体が丈夫であ れば、健常者と同じように働ける環境 があるのだと感じた。ザンジバルに 着くとすぐにコーランが聞こえて きた。その雰囲気はダルエスサラ ームと全然違い、とにかくイスラ ム色の強い地域というのを肌で 感じた。 |
| 8月13日(木) | 隊員との懇談会 | ザンジバルで働く隊員さんたちのお話を 伺った。学校現場でパソコンを教 えている隊員が多く、観光業が発 達しているザンジバルならではの 状況かなとも思った。また、ス ーパーがないので鶏肉を自分で 捌いて料理していたら、「手羽先 は2つだけ」だと気がついた、 という言葉は当たり前のこと なのだけれど衝撃的だった。 |
| 8月13日(水) | 本日の振り返り | ザンジバル島に着いた時に、港には タンカーとダウ船が並んでいた。 21世紀のこの時に、未だダウ 船がタンカーと肩を並べて大海 原に出ていることが不思議に思 えた。 |
| 8月14日(木) | ムナジモジャ病院 | 沢谷隊員の病院を訪問。入院病棟 は、ほぼ外科も |

| | | |
|----------|-----------------------------|---|
| | 沢谷隊員 活動視察 | 内科もなくざっくりとベッドが並んでいる印象だった。驚いたのが、火傷で入院している子どもの小さいこと。ザンジバルに来てから、玄関先(?)でチャパティを焼いたりする姿を目にしてきたが、子どもと火の距離が近い。また、万が一事故が起きたときに水が出ないことが多く、悪化させてしまうのだとか。大人の危機管理が少し薄いのかもしれない。また、脳性麻痺やダウン症のお子さんの理学療法の様子を見学させてもらった。お母さん方の表情はあまり良くなく、特にリスクの高いダウン症のお子さんを抱っこさせてもらった時に、この子はどんな人生を歩むのだろうと考えずにはいられなかった。 |
| 8月14日(木) | ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察 | 今日は物を見てほしい、とのことだった。井戸や湧水地を見に行ったが、私が思ったよりも水はたくさんあった。この水が必要な時に届かないとは、一体どこに行ってしまうのだろう、というのが疑問だった。 |
| 8月14日(木) | 本日の振り返り | 水道事業を進めるにあたり、沢山の困難があったことと思うが、現地の方と同じ土俵で活動しようとする日本人専門家の姿がとても印象的だった。崎山専門家の「人々の意識を変える」という点が私たち教育職とつながっている点だと考えさせられた。 |
| 8月15日(金) | ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察 | トレーニングセンターそして給水地域を中心に見学させてもらった。給水地域ではメータをつけることによって節水につながることや、WATER KIOSK ができたことで2次雇用にもつながっているとのこと。日本でも女性の水道技師が少ないとのことだったが、ZAWA のトレーニングセンターでも 6/37 人が女性とのこと。水道事業に従事する女性を増やすという点では万国共通なのだろうか。 |
| 8月15日(金) | ホームステイ先との交流 | ホームステイ先でひとしきり子どもたちと遊んだ後、料理をしているところを見せてもらった。タンザニアには珍しい核家族で、父親は入国管理局で、母親はフォーム2・3のスワヒリ語の先生とのこと。教育に力を入れていて、一番年上の7歳の娘は私立の学校に通っているという。また、この家には15歳と26歳のお手伝いさんがいた。この子たちの学校事情はどうなっているのか。 |
| 8月16日(土) | ホームステイ先との交流 | 子どもたちがコーランの学校に行ってしまうことから、朝食の支度を見せてもらった。昨日は気がつ |

| | | |
|----------|------------------------|---|
| | | <p>かなかったが台所の隅に木炭の袋が1つ。普段は主にガスで調理をしているが、ガスが切れると木炭に切り替えるとのこと。トイレの水はいつでも出るが、洗面所の水は出ず。ダミーなのか。</p> <p>また、母親が働いているという学校にも連れて行ってもらった。来月テストを控えているフォーム3の生徒さんたちとお話することができた。</p> |
| 8月16日(土) | 教材購入 | <p>郵便局に行っただけで終わってしまった。やっとスワヒリ語の挨拶に慣れてきた。ホームステイでスワヒリ語の語彙が一気に増えた気がした。</p> |
| 8月16日(土) | 本日の振り返り | <p>アフリカで、ザンジバルで、イスラム教徒の家でホームステイできたというのがとても大きい。家での調理の様子、お祈りの様子などを見せてもらった。日本では縁遠い世界なので、イスラム教がぐっと身近に感じられるようになった。</p> |
| 8月17日(日) | ダルエスサラームへ移動 モロゴロへ移動 | <p>疲れと油の多い食事からなのか、少々体調を崩す。移動中は体力温存に努めた。ザンジバルから戻ると、ダルエスサラームでの時間の流れがとても速く感じられた。また、内陸に移動するに従って、平屋建ての建物が増え、明らかに経済格差が感じられた。内陸に行くに従って湿度が下がっていくのも肌で感じられた。</p> |
| 8月17日(日) | 隊員との懇親会 | <p>同じ立場の方々とお話できる貴重な機会だった。日本と比べて教室に詰め込むように生徒がたくさんいること。体罰として、女子は手を、男子はお尻を木の棒で打つことがあり、時には生徒がキレてしまう事件もあったという話が印象的だった。</p> |
| 8月17日(日) | 本日の振り返り | <p>市場に行ったことが大きな収穫だったように思う。モロゴロの街は他の街に行く中継地点で野菜や家財道具などいろいろそろってはいたが、内陸ということもあり、売っていた魚は干したものが多かった。また、カンガを購入したのだが、購入して初めてカンガが2枚1組だということに気がついた。</p> |
| 8月18日(月) | キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察 | <p>キラカラ中学校訪問。試験で選ばれて通っているという生徒さんたちだけあり、才女軍団でした。全寮制の学校で、全国からいらっしやっていると、視点が外に向いている生徒さんが多かった。家に帰れるのは年4回だけということで、正直ホームシックにもなるという。また、携帯電話は持ち込み禁止という規則があり、家との距離をある程度保つようにしていた。教室内にキリスト教とイスラム教の生徒が入り交じっていたのだ</p> |

| | | |
|----------|-----------------------------------|---|
| | | が、学校内で宗教の話は禁止とのこと。とにかく人の相互理解からの教育が行われているように思えた。 |
| 8月18日(月) | ダルエスサラームへ移動 | モロゴロには山があり、自然があり、道もアップダウンが少々あったが、ダルエスサラームに近づくにつれて道が平坦になっていくこと、また空気が淀んで（多分排気ガス）行くのが肌で感じられた。また道の途中で過積載の取り締まりを行っており（それが渋滞を引き起こしてもいたのだが）、安全に対する意識と、利益を求める人間の意識とを考えさせられた。 |
| 8月19日(火) | タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察 | タンザニアの電気事業が民営化された時に、電気技師の研修の場がなくなってしまったのでその学校を1から作ってしまった日本人専門家のお話を聞いたことが1番の収穫だったかと思う。支援の一つとして施設を建ててしまうのは簡単なこと。しかし、その施設をいずれはタンザニア人だけで運営していくのが本来の支援になるのであり、そのために一緒に働いて成果を出す小田切さんと長坂さんの情熱を感じた。支援の相手は人であるという言葉がZAWAの崎山専門家と同じだった。また、女性の幹部も多く、私が思っていた以上にタンザニアでは女性の社会進出が進んでいる。 |
| 8月19日(火) | 教材等購入 | ティンガティンガ村が一番印象的だった。このアートを購入した。アフリカのアアートが私にとっては衝撃的で、原色をたくさん使っているのにもかかわらずケンカしない、あたたかい絵がティンガティンガの不思議なところかと思う。 |
| 8月19日(火) | 本日の振り返り | この日印象的だった言葉が「相手は人だから。人と人のつきあいは誠実につきあえば通じていく」という長坂さんの言葉。とにかく自分たちが日本に戻ったときのことを考えて、今できることを精一杯取り組んでいる姿が、親亡き後の子を思う気持ちと相通ずるものがあるのではにかと感じた。 |
| 8月20日(水) | JICA タンザニア事務所 報告会 | この9日間の研修で得たことや、今後生かしていきたいことを発表した。今まで私は同じように教材集めも含めてアジアを中心にめぐってきたが、結局ホテルや名所巡りで終わっていた。人々の生活は外から垣間見るだけであったが、タンザニアの研修で人の生活に必要なものを ZAWA や TANESCO で養っていただいた。どの国に旅行したとしても、その眼は持ち続けていきたい。また、支援といっても結局あいては人で、その土地に即し |

| | | |
|---------------------|----------------------------|---|
| | | た形と一緒に模索する日本人の姿、そしてザンジバルでのホームステイでイスラム文化を見られたことから、相互理解の大切さを痛感した。 |
| 8月20日(水) | 在タンザニア日本大使館 表敬訪問 | 岡田大使はとても気さくな方でした。ODAを実施するために実際に大使とJICAが話し合いを進めながらの支援になるということだそう。大使は日本の子供たちに、タンザニアはとにかくおもしろそう、行ってみたいと思ってほしい、とのことだった。日本人は人種偏見がかならずあるが、それは個人的にタンザニアの人たちとの交流ですくなくなるはずという言葉が印象的だった。 |
| 8月20日(水) -21日(木) | タンザニアから日本までの 移動中および日本到着 | 帰りの飛行機で窓の外を眺めていたら、雲の間からボコッと頭を出しているキリマンジャロが見えた。想像したよりも大きく、形は富士山と似ているのかもしれないが、スケールの違いを見せつけられた。タンザニアは思ったよりも忙しい場所だった。ダイナミックなのに、細やかなおもてなしがあり、日本人と気質が似ているのかもしれないとも思った。町中にゴミが沢山見られたことから、モラル教育はまだこれからなのかもしれないが、これから成長を遂げる、可能性のある国だと感じた。9日間をじっくり振り返るいい時間だった。 |